



もち振る舞いもてなす 有志らが登録支援活動

町民有志による「縁起もち振る舞い」が1月1日、JR平泉駅前で行われました。もてなしの心で初もうで客を迎え、世界遺産登録への支援を呼び掛けました。

平泉地区鉄道OB会、農事組合法人アグリ平泉、平泉歩こう会、町職員組合、小岩材木店の5団体が主催し町民ら約150人が参加。駅を降りた初もうで客に約130*、700人分のもちを振る舞いました。

会場には登録支援を呼び掛ける募金箱も設置。6万1000円が15日、町に贈られました。



子育て支援など多彩に活動 福祉活動センターオープン

町社会福祉協議会の開放型福祉施設「町福祉活動センター」の開所式が1月15日、字志羅山の現地で行われました。

国道4号沿いにある旧Aコープ店を改修して整備。子育て支援やふれあいサロン、障がい者の居場所づくりなど、総合的な福祉活動を展開します。



新しい施設の完成を祝う ふくしの里デイセンター

社会福祉法人稲泉会の「ふくしの里デイサービスセンター」の開所式が1月22日、字片岡の現地で行われました。

新施設を建設し、隣接する特別養護老人ホーム慶泉荘内にこれまであった機能を移転。利用者へのさらなるサービス向上を目指します。

勇壮に火たきのぼり 毛越寺の二十日夜祭

1月20日、毛越寺常行堂の二十日夜祭が行われ、厄災消除、無病息災、五穀豊じょうなどが祈願されました。二十日夜祭は、一山の僧りょたちが常行堂で続けてきた祈とうが満願するのを祈って行われているもの。今年も厄男など約300人が参加しました。

町内外5カ所の奉納宿から集結した参加者たちは、駅から常行堂までの道のりを献ぜん行列、鬼子、火たきのぼりで練り歩きました。

常行堂では、厄男たちによる「蘇民袋」の争奪戦などが行われ、境内は熱気に包まれていました。



対策案示し意見交換 受入体制整備促進協

平泉世界遺産登録受入体制整備促進協議会(会長・小野寺邦夫平泉観光協会会長)の第2回会議が1月20日、役場で開かれました。

国土交通省東北運輸局がJR一ノ関駅、猊鼻溪、巖美溪、中尊寺、毛越寺などで昨年11月に実施した、外国人による案内表示などの多言語化(日英中韓)現地点検調査の結果を報告。課題を挙げた上で、2月下旬に行う実証実験に向けた対策案を示しました。同局は多言語化情報モデルを3月末までに確立する予定です。



幻想世界繰り広げる 毛越寺前で「夢灯り」

ひらいずみ夢灯りの会(升沢博子会長)は12月31日、毛越寺前ポケットパーク内の歩道で恒例の夢灯りを催しました。

会員ら約10人が参加。約200個の夢灯りを設置しました。幻想的な光が同寺を訪れる初もうで客の目を楽しませました。



幸福を祈り一気に 中尊寺で金盃披露

1月8日、中尊寺の新春恒例行事「金盃披露」が同寺大書院で行われました。

町内外から招待者約140人が出席。鏡開きに続いて大(3.5合)、中(2.5合)、小(2合)の金盃に注がれた酒を一気に飲み干し、今年一年の健康と幸福を祈りました。

協働のまちづくり模索 ひらいずみ女性の集い

第3回ひらいずみ女性の集い(平泉女性の会主催)が1月9日、平泉文化遺産センターで開かれました。約150人が参加。基調講演やパネルディスカッションを通して、農産物加工分野の男女共同参画に理解を深めました。

このうちパネルディスカッションでは、畠山勝彦平泉地域教育協議会会長をコーディネーターに、千葉勝雄道の駅かわさき駅長、菊池育子県中央農業改良普及センター主任農業普及員、佐々木正アグリ平泉代表理事がパネリストを務め、女性の力を生かした農産加工について意見を交換しました。

